

くまもと面白漫遊記

～嶋村祐介広報特派員のおすすめのこの町・この人～

No.12

玉名地区

幻の鷹ノ原城を追う・南関町 ～謎の大城・鷹ノ原城跡が語る南関の歴史～

人々は、そこに「城」があると信じていた。
南関町の史書に残る「鷹ノ原城」。
一国一城令により忽然と姿を消した「幻の城」は
400年もの間、その姿をなかなか現そうとしなかった。

しかし、歴史は応えてくれた。
本格的な発掘作業が開始されて1年後、
待望の「石垣」が出現した。
その驚きと感動を忘れることはできない。
「石垣」の上に建っていたであろう本丸を見上げると
「鷹ノ原城」によって南関町の新しい歴史が
よみがえる「夢」が見える。



発掘中の鷹ノ原城跡
その規模は宇土城跡や肥前名護屋城に匹敵するほどだ。



出現した石垣
本丸の石垣の高さは12m以上あったと言われる。

関所の里にもう一つの歴史がよみがえる 北の防衛拠点に巨大な城郭を誇る 幻の城・鷹ノ原城跡が出現！

南関町とは、筑後国の北の関（現在の福岡県大和郡北関）に対して、「南の関」と呼ばれた関所があったことから名付けられた。江戸時代には参勤交代の勇壮な大名行列が通った豊前街道を中心に関所の町は、行き交う旅人たちで賑わっていただろう。大津山の関が置かれたのが平安時代とも云われ、古くから交通の要衝として発展してきた町である。関所のあった関町をはじめ、関下、関東など関所を中心にした地名が今も残り、当時の町の姿をしのばせる。

まさに、肥後国にとっては「北の守り」とも言うべき地域。町の北にそびえる大津山には、中世に築城された大津山城跡（轟嶽城跡・つづらだけじょうあと）があり、南関町が果たした役割が史跡に刻まれている。そんな南関町の歴史に新たな1ページが加わろうとしている。

南関町にもう一つ、お城があったというのだ。大津山城を廃して築かれた新城「鷹ノ原城」。宝永3年（1706）に記された「南関紀聞」により鷹ノ原城の存在は明らかにされていたが、一国一城令により廃城となって、約400年、「鷹ノ原城」は地区の人々に伝承されていたものの、存在を示す城の実像に出会うことはなかった。かくして、南関町は平成9年度から6ヶ年の計画で発掘調査に着手、そこに驚きと感動、そして、様々な不思議に満ちた「鷹ノ原城」の姿が浮き彫りになってきたのである。

役場の北側、標高100mの丘陵地にその「お城」はあった。畑地や栗の木が並ぶ広い台地を進む。調査発掘を担当される南関町教育委員会社会教育課・文化財係の坂本重義係長に案内していただいた。



嶋村広報委員 Q : 鷹ノ原城の存在は以前から知られていたのですか？



坂本係長 A : 地区の人々は知っていました。「南関紀聞」によると鷹ノ原城は、慶長5年(1600)に築城が開始され、一国一城令(元和元年・1615)により壊されたと記されています。

また、慶長10年(1605)に毛利藩の密偵が描いたいわゆる「九州諸城図(山口県文書館蔵)」にも鷹ノ原城の櫓がいくつか描かれていますので、あったのは確かですが、誰も城跡の実態を知らなかったのです。



坂本係長

嶋村広報委員 Q : 15年間しかなかったということで、しかも、誰も見ていない幻の城ですね。鷹ノ原城築城の目的は？

坂本係長 A : 鷹ノ原城は、熊本城の支城の一つですが、南関は国境の町、北の防備の拠点として重要な位置にありました。

ゆえに中世からその拠点としていた大津山城には、加藤家のナンバー1か2の重臣が城代を務めています。

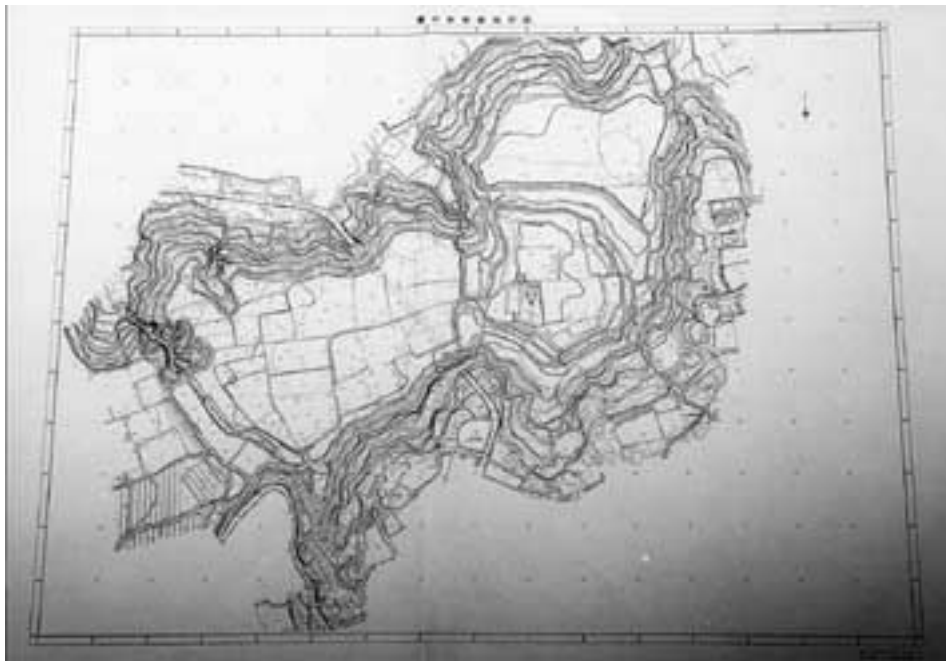
築城当時は清正の家臣・加藤美作守正次の時代、「南関紀聞」によると加藤美作守正次の願いで清正が築城を許したとあります。大津山城が手狭になったのでしょうし、ちょうど山城から平城への転換の時代でもあったのです。

嶋村広報委員 Q : さて、鷹ノ原城の規模ですが？

坂本係長 A : 東西に長く伸びる標高100mの台地を4本の堀切が分断し、東から二の丸、

本丸、三の丸があります。

城域は、支城としては不釣り合いなほど広く、東西600m、南北200m。平場だけでも9万㎡、台地の裾部を含めると面積は17万㎡の規模になります。宇土城跡や佐賀の名護屋城跡に匹敵するほどの大きさです。



嶋村広報委員 Q：発掘調査の経緯をお願いします。

坂本係長 A：発掘調査は平成9年から始めました。

その調査で本丸全体が4.8mの盛土であることがわかりました。

計算したら、10tトラックで8千台分くらいですね。

この労力もすごいと思いました。

また、鯨（しゃち）瓦も出土、瓦葺きの建築物があったということが判明しました。



三の丸跡

ゾクッとした石垣発見！ うれしかった…。

嶋村広報委員 Q：石垣発見の瞬間、覚えていらっしゃいますか？

坂本係長 A：はっきり覚えています。

平成10年の3月です。本丸の西側の堀切を掘っていたところ、ユンボの爪が凝灰岩に当たったんです。

ユンボで削るけど石は動かない。ゾクッとしましたね。壊された石材を廃棄したものにぶつかったんです。うれしかったですね。

堀の底に壊した石垣の石材を並べ、その上に徹底的に土がかぶせてあったんです。

次に斜面を掘ると、石垣が残っていたんです。石垣は復元すると高さ12m以上になると思われます。

想像を超える高さ、大きさに驚きました。

石材は、阿蘇溶結凝灰岩、地元の関川流域のものです。



出土した鯪瓦

嶋村広報委員 Q：感動的ですわね。

それ以後、いろいろなものが発掘されたんですわね？

坂本係長 A：新たな石垣も見つかったり、本丸の櫓跡や城門の跡、また、出土品の中からは、「寛永通宝」が出てきました。これは、寛永13（1636）以降、に鑄造が開始された「古寛永」と呼ばれているもので、土砂の中から出土しました。つまり「島原の乱」以後にも壊されたということを強く示唆しています。



本丸跡



【鷹ノ原城関連年表】（南関町教育委員会資料より抜粋）

- 天正 2年（1574）清正、13才で秀吉に仕える。
- 15年（1587）秀吉、九州征伐の際、南関正法寺に一泊。
佐々成政、肥後国主となる。
- 16年（1588）清正、成政旧領のうち19万5千石を拝領。
大津山城代として加藤清兵衛を置く。
- 19年（1591）清正、肥前名護屋城築城に従事。
- 文禄 元年（1592）清正、釜山に上陸（文禄の役）
2年（1593）加藤正次、大津山城代となる。
- 慶長 2年（1597）慶長の役
3年（1598）秀吉、死去。
4年（1599）清正、熊本城築城開始（森山説）
5年（1600）関ヶ原の合戦
清正、肥後守となり52万石を領す。
清正、加藤美作守正次の願いにより
大津山城を廃し、新城（鷹ノ原城）築城。
- 8年（1603）徳川家康、征夷大將軍となる。
- 16年（1611）清正、死去。
- 元和 元年（1615）一国一城令により、南関、内牧、佐敷城を壊す
- 寛永 9年（1632）加藤忠広、改易。
細川忠利入国。
- 13年（1636）寛永通宝の鑄造開始。
- 14年（1638）島原の乱。
- 15年（1638）忠利、佐敷・水俣両城を再度、破却。

なぜ、大きな城が必要だったのか？ 城はどこへ行ったのか？ 鷹ノ原城の不思議がいっぱい！

鷹ノ原城は、発掘調査が進むに連れ、次第に堂々たる近世城郭の風貌が明らかになっていく。しかし、坂本係長の話をつかっていると、様々な不思議、疑問が湧いてきた。鷹ノ原城は、加藤家の出城であるにもかかわらず、なぜ、これほど大きいのか？ 清正が自ら縄張りをした証拠は？ さらに、2度にわたって行われたと思われる破城の理由は？ 坂本係長もその不思議を楽しむかのように、推測してくれた。



嶋村広報委員 Q：鷹ノ原城には、いろんな不思議がありますが気になるのは、なぜ、これほど大きな城郭のお城が必要だったのでしょうか？

坂本係長 A：先程も言ったように、南関は肥後国の北の防備拠点であったことが挙げられますが、それにしても、この城は支城にすれば広すぎる気がします。もっとも関ヶ原合戦直後から全国的に築城ブームがおこり急激に巨大化するとは言われていますが…。興味深いのは「南関紀聞」によると関ヶ原合戦の直後、清正自ら「高原」に昇って縄張りをしたと記され、関町の建設も並行して行ったとされていることです。美作守の城づくりの意図を清正が気に入らなかったという話も残っています。

熊本城にも見える清正の城づくりの手法が鷹ノ原城にも生かされているのではないかと想像されます。

例えば、石垣。一見、ふぞろいの石が積まれているように見えますが、しっかりと積まれているんです。これは熊本城の本丸と同じ。さらに、石垣が南北に通っていて狂っていないんです。この正確な技術から察すると、もしかすると熊本城と同じ石工の集団ではないかと推測されます。

調査をしていく段階で熊本城との共通点がもっと見つかるかも知れません。

もう一つ興味深いのは、計画的な町づくりです。

城の南側に城下町・関町が作られ、街道は町屋敷に入って、3ヶ所曲がっています。敵の進軍を容易にさせないためです。城づくり、町づくりを見ても清正の発想がうかがえます。

嶋村広報委員 Q：興味深いですね。では、鷹ノ原城を2度にわたって壊しているのは、なぜなのでしょう？

坂本係長 A：まだ、はっきりとはわかりません。鷹ノ原城代・加藤美作正次は、加藤家のお家騒動で罪人とされ流されます。罪人がいたお城ということで徹底的に壊されたなどと勝手に空想したりしてます。また、島原の乱を教訓に城が一揆などに使われないようにするために、念入りに再度、壊したとも考えられます。いずれにしても徹底的な破壊を行なっています。それはまさに異常なほどです。また、櫓は解体されて熊本城に移築された可能性もありますが、それを検証するのは、ちょっと無理かもしれませんね。

嶋村広報委員 Q：これからの発掘調査の計画は？

坂本係長 A：鷹ノ原城全体を把握する調査を行っていきます。何年かかるか見当もつきませんが、次第に鷹ノ原城の全貌と共に不思議が解き明かされていくことと思います。

鷹ノ原城の不思議が発掘される日に期待！

取材を終えて…嶋村広報委員

これから鷹ノ原城の発掘が進むと、南関町にとって閉ざされていた歴史の1ページが明らかになっていくようで大変興味深く思っています。南関町の果たした大きな役割を物語る史跡として、これから、重要な存在になっていくと思います。鷹ノ原城の不思議は、ぜひ、皆さんで推理してみてください。歴史の楽しさは、そこから始まるのだと感じました。“謎を推理する城”そんなキャッチフレーズが似合います。鷹ノ原城の不思議が発掘される日迄長い道程だと思いますが、その日を心待ちにしています。

